

希望の火とニンジャホープがセルビアにて希望と平和のメッセージを広める



2020年2月 アースキャラバンのニンジャガールズは希望の火を携えてベオグラードに到着しました。彼女達の使命は、希望の火のメッセージを強く確かなものにするのと、ヨーロッパのバルカン諸国でニンジャホープゲームを広めることでした。

- セルビアの人々はアースキャラバンを快く迎えてくれました。素晴らしい料理と友情とともに、希望の火のスピリットは参加したすべての人達に喜びをもたらしました。希望の火は2019年に誕生して以来、人々の潜在能力の開発、人生の変革、過去のトラウマの癒し、そして明るい未来の創造に貢献してきました。

「ワークショップに参加し、私の中にあった恐怖を解決することができました」とワークショップの参加者であるクリス・ティナは言いました。「私はワークショップで、自分自身の心の力（エネルギー）を強く感じました。そしてその経験は私の全ての存在を以て愛する人に向き合い、また理解を示すチャンスを与えてくれました。

これは私にとってとても意味があることで、重要なことです。皆さんにとっても感謝し、幸せに感じています。」



ベオグラードのサヴァ川にあるサンアートホテルでは、心を開放したセルビア人達との素晴らしい出会いができました。ホテルのスタッフ達は、ワークショップの為にリビングルームを無料で提供してくれました。ダリボー・ルキッチというセルビア人ジャーナリストがワークショップに出席し、彼のレポートはRTV ムラビチャネルで放送されました。



希望の火、ニンジャホープが市の新文化共同開発に参加

ベオグラードの南東100 kmに位置するペトロヴァツ・ナ・ムラビの街で、アースキャラバンチームが街の副市長であるゴラン・リスティッチ氏に会いました。また、ムラドスト高校のディレクターであるフィリップ・グサノフ氏とも面会し、ニンジャ・ホープのボードゲームと共に「希望の火」プロジェクトを紹介しました。アースキャラバンは、2018年からこの自治体で活動しています。

リスティッチ氏は、ペトロヴァツ・ナ・ムラビからアースキャラバンに「平和のメッセージ」を贈りました。このメッセージには世界平和への願いが込められており、この願いはすべての子供（および大人）が喜びに満ちた幸せな生活を送ることができるようにと記されています。また、2019年3月に教皇フランシスが示されたように、すべての戦争と侵略を終わらせるためのシンボルとして広島の実験の火を吹き消し、そして希望の火に平和への祈りを捧げました。



MESSAGE OF PEACE – PETROVAC NA MLAVI

We must know history well and keep reminding it so that the terrible mistakes of the past won't never be repeated.

From this we hope and pray that children, first and foremost, do not have to endure the horrors of war.

We hope and pray that any conflict is resolved peacefully.

We hope and pray that all children have the childhood they deserve, to grow up happy and carefree.

We hope and pray that we hear as much childish laughter and play as possible, and as little rattling as possible.

“Darkness cannot drive out darkness; only light can do that. Hate cannot drive out hate; only love can do that.” ~ Martin Luther King, Jr.

Vice president of
Municipality of Petrovac na Mlavi



Goran Ristić

平和へのメッセージ ペトロバッチ・ナ・ムラビ

過去の酷い過ちが二度と繰り返されないように、私たちは歴史をよく知り、それを思い出さなければなりません。

そこから私たちは、何よりもまず、子どもたちが戦争の恐怖に耐える必要がないことを祈っています。

そして紛争が平和に解決されることを願って祈ります。

また、すべての子供たちが彼らに必要な子供時代を過ごし、幸せで楽しく育つことができるように願って祈ります。

できるだけ子どもの笑いがたくさん聞けて共に遊べ、穏やかに生活できるように願っています。

「闇は闇を追い払うことはできません。光のみが闇を転換できるのです。憎しみは憎しみを追い払うことはできない。愛だけが闇や憎しみを転換することが出来るのです。」

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

希望の火と忍者ホープのプロジェクトを発表した後、リスチッチ氏とグサノフ氏が、平和と希望の火に基づく新しい文化を作りたいとの希望を表しました。

グサノフ氏は、彼の高校をはじめ、市の小学校や他の町の高校にもニンジャホープを紹介したいという希望を示しました。また、2020年の夏の終わりにベツレヘムで行われるベツラヘムライブ平和フェスティバルへの「希望の火の旅」の話を聞いてその参加に興味をもちました。

グサノフ氏は、2019年夏、アースキャラバンがペトロヴァッチで行なったイベントに参加したロックバンド「ミスターハイドロック」のミュージシャンでもあります。

ニンジャホープのワークショップ

僧侶でタオ指圧の創始者である遠藤暁及氏が作ったボードゲーム、ニンジャホープは、問題解決、創造的思考、異文化理解力等を深める究極の頭脳トレーニングゲームです。

ワークショップの参加者はゲームを紹介され、ワークの気の効果に非常に驚きました。特に感銘を受けたのは、9歳のアンジェラと11歳のミリツツアの2人の少女です。彼女達はすぐにルールを理解してみんなに説明し、またすぐに上手くなりました。



「私とお母さんから、感謝を言いたいです」と、11歳の参加者であるミリッツァは言いました。「皆さんと素晴らしい時間を過ごして、多くのことを学びました。また会えることを楽しみにしています。」

ワークの中で、参加者は、お互いの心の中の最も素敵な部分を想像し、その絵を描くということをしました。（絵には多くのハートと笑顔が描かれていました）このワークは部屋全体のエネルギーを変えました。誰もがお互いに繋がりが合っているという融合感をさらに強く感じ、みんなの大きな笑顔と暖かさの気が部屋全体にに広がりました。



希望の火ワークショップ

希望の火は平和への祈りです。これは、平和に対する人類の共通の願いを初めて形にしたものです。希望の火は、世界のすべてのネガティブなエネルギーをポジティブに変え、共感、相互理解と思いやりを生み出すことを目的としています。

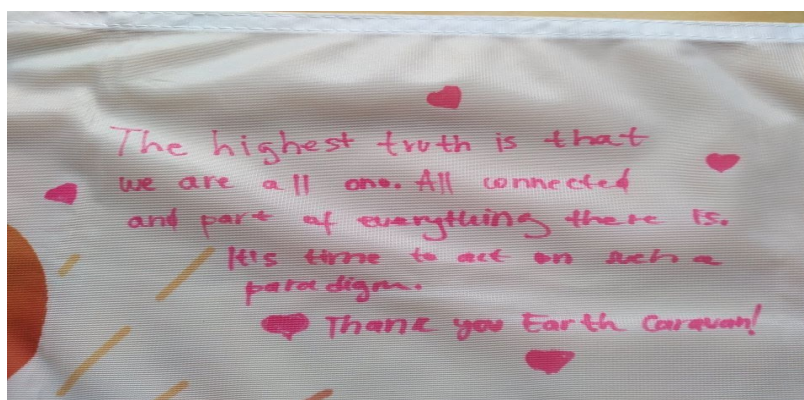
希望の火を広めることは、国境、宗教、国籍、言語、文化を超えて人々を結びつけることです。それによって、人類を隔てる壁がなくなるでしょう。そして希望の火のワークショップで、参加者は世界への願いを希望の火に加え、2019年9月から日本とヨーロッパに集まった何千もの祈りと願いの連鎖を続けました。

「私はこれまでにこの種のワークショップを経験したことがありませんでした。」と参加者のドラゴアは言いました。「でも、本当にこの体験はパワフルでした。将来的には、このホステルのリビングルームより大きなスペースが必要になりますね。」



未来のための明るい種を植える

すべての参加者は、再びワークショップに参加したいという願いを伝え、将来の共同文化交流活動の計画を協力して創ることを楽しみにして望みました。イベントに参加したすべてのセルビア人達は喜びと希望に満ちて、希望の火のスピリットを継続するという気持ちを表しました。



(最後の写真)

最も重要な真実は、私たち全員が一つであることです。すべてが融合されていて、存在するものは全てがその一つの一部分。そんなパラダイムを実行する時がきました。

アースキャラバンありがとう!